

都知事の暴走 なぜ止めぬ

「都議会は何をやってるんだ」

3月、東京都の舛添要一知事が韓国入学校の増設に向け、新宿区にある約6千平方メートルの公有地を韓国政府に貸与する方針を打ち出すと、ある都議の事務所に苦情の電話が相次いだ。

保育所や介護施設など都内で不足する施設はいくらでもある。「なぜ都民のために使わず、韓国入学校を優先するのか」と怒る都民の思いは切実だ。

折しも3月議会の会期中だった。一問一答の質疑を行う予算特別委など、発言の機会は十分あったが、同問題について各会派とも「沈黙」した。

この都議は「公有地の貸与については議会の承認はならず、議会案件になっていない。地元から陳情や請願でもない限り、積極的には動けない」と語るが、都庁には1500件を超す抗議電話が殺到した（12日現在）。舛添知事は、公有地の貸与について「都民の理解が得られると思うか」とする報道陣の問いかけに、こうこそぶいた。

「都民って誰ですか。都民は1350万人いる。どんな政策をやっても批判がある。さっきの予算じゃないが、私の支持者が9割いて、1割反対。1割でも1

韓国人学校・高額海外出張・別荘通い…

地方議会の現状	平成16年	23年
自治体	2242	1797
地方議員	6万168人	3万4795人
報酬総額	4090億円	3018億円
1人あたり報酬	680万円	867万円

※構想日本の資料を基に作成



3月25日の都議会閉会日。「知事提案のすべての議案に、賛成の立場から討論を行います」

本会議場に勢いのいい声が響いた。38日間の定例会は結局、共産を除く全会派が賛同し、舛添知事が提出した全議案を原案通り可決して閉会した。

原案可決率100%。知事へのチェック機能を放棄したかのような異常事態が都議会で少なくとも3年以上続いている。ある自民党の都議は「根回しは終わっている。本会議は単なるセレモニーだ」という。

だが、都政に詳しい中央大の佐々木信夫教授（行政学）は「議会は知事の『暴走』をいかに修正し、足りないところを補うかに価値がある。双方が競い合うと

ころに意味があるのに、知事と一体化し、オール与党化するならば意味がない」と指摘する。

舛添知事の高額海外出張費も3月議会中、すでに問題視されていた。自民党の宇田川聡史幹事長が代表質問で「海外出張より前に、なすべきことがあるのではないかとくぎを刺し、公明も「知事の都市外交を高く評価している」としながら、経費の縮減と内訳公開を求める文書を知事に提出していた。

だが、知事側は内訳開示には応じず、突っ込み不足は明らかだった。3月定例会がこのように無風で終わるのを見届けると、知事は4月12日、15人の随員を従え、ファーストクラスで訪米の旅に出た。

公用車による別荘通い、政治資金による「家族旅行費」支出…その後発覚した舛添知事の疑惑の数々に、都庁には1万件超の批判が集まる。が、都議会最大の自民党内には今も、知事批判を強めることが得策かどうかを見極めたいとする「慎重論」が根強い。

「まずは知事が説明責任を」。ある自民都議は様子見を決め込んだ。

号泣元興議に代表される耳を疑う不祥事、暴走首長に弱腰で、有権者不在の議会運営…なのに報酬は世界最高レベルのグラフ。地方議員に対する住民の信任はすでに地に落ち、日本の民主主義が地方から崩れようとしている。少子高齢化など地域が直面する課題に、もっといかす方法はないのか。「につぼん再構築・第3部」で考えたい。



定例記者会見で、記者の質問に答える東京都の舛添要一知事。13日、東京都新宿区の都庁

3面に続く